

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス暖母多の津Ⅱ		
○保護者評価実施期間	R 8年 2月 15日		～ R 8年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数) 31名
○従業者評価実施期間	R 8年 3月10日		～ R 8年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R 8年 2月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用時間や曜日の枠を超えて、ご家族や児童の困り感に都度対応している。	家庭連携の利用(家庭訪問・面談) 必要な課題では、支援員会議の提案と学校含めて相談・実施	多機能型事業を行っているうえで、多様なニーズへの対応方法を事業間でも共有し対応していく。
2	児童の成長の姿をアプリを利用して、タイムリーに共有する。家庭で見せない姿を知ること、ご家族の安心につながる。	ICT化の利用。 個別担当制の導入(3か月に1度の交代) 担当者交代による社会性・コミュニケーションの広がりを進める。	個別担当者と専門実施担当者の情報共有と連携
3	児童も含めた個別支援計画の検討。 学校・保護者・兄弟・地域での関係(習い事)放デイそれぞれの場所での活動や社会参加を目標に支援計画を見直し、最終地域で過ごす時間を増やし自立に向けて支援している。ただし、精神的な面では、継続的なサポートを行う。	それぞれの関係者への聞き取りを行い必要な場合には、支援会議を行い。優先的な3つの目標を具体的にしていく。	事業所内での事業間カンファレンスを実施

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者とのコミュニケーションを十分に確保する事	就労との両立により余裕のない保護者にどのようなコミュニケーションを行う事が保護者にとって安心につながるか	応答を求めるよりも、声掛けを進めていく。アプリ利用。
2	支援員の専門性の向上	多の津Ⅱの児童の特徴から、児童一人一人が自分の思いを表現しストレスを調整しながらも活動や社会参加する為の支援について学び個々に合った支援を進めるためのスキルを、身に着ける。	職員個々の興味関心に沿った外部研修に提案や資格修得を検討。積極的に参加できる環境を準備し、児童へ般化できる様進める
3			